

薬事に関する法規と制度（20問）

【問1】 次の記述のうち、薬事法の規定に照らし、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品を、業として販売又は授与を行うには、薬局の開設又は医薬品の販売業の許可を受けなければならない。
- b 医薬品の販売業の許可を受けた者のうち、一般の生活者に対して医薬品を販売することができるのは、店舗販売業の許可を受けた者と、配置販売業の許可を受けた者のみである。
- c 配置販売業の許可を受けた者は、店舗による販売方法により医薬品を販売することができる。
- d 店舗販売業の許可を受けた者は、配置の方法により医薬品を販売することができる。

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

【問2】 次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬局では、医療用医薬品のみを取り扱うことができる。
- b 薬局の開設の許可を受けた者は、必ず自らがその薬局を実地に管理しなければならない。
- c 店舗販売業の許可を受けた者は、薬剤師がいる場合に限り調剤を行うことができる。
- d 店舗販売業の許可を受けた者は、登録販売者により第一類医薬品を販売させることができる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	誤

【問3】 店舗販売業の店舗を管理する者（店舗管理者）に関する次の記述のうち、薬事法の規定に照らし、正しいものはどれか。

- 1 店舗管理者は、その店舗を実地に管理しなくてもよい。
- 2 店舗管理者がその店舗の店長ではない場合、保健衛生上支障を生ずるおそれがないように、その店舗の業務につき必要な注意をしなくてもよい。
- 3 店舗管理者は、店舗販売業者に対して保健衛生上支障を生ずるおそれがないように、必要な意見を述べなければならない。
- 4 店舗管理者は、店舗販売業者の意見を尊重しなければならない。

【問4】 次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 「薬局は、その所在地の都道府県知事の許可を受けなければ、開設してはならない」とされている。
- b 店舗販売業の許可は、業者ごとに、その業者の本社所在地の都道府県知事（その業者の本社所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）が与えることとされている。
- c 配置販売業の許可は、配置する医薬品を保管する営業所の所在地の都道府県知事が与えることとされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正

【問5】 配置販売業に関する次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 配置販売業者は、第二類医薬品及び第三類医薬品の一般用医薬品であれば、すべてを販売することができる。
- b 配置販売業者が購入者の居宅に医薬品を配置することは、陳列に含まれない。
- c 配置販売業者又はその配置員は、氏名、配置販売に従事しようとする区域を、あらかじめ配置販売に従事しようとする区域の都道府県知事に届け出なければならない。
- d 配置販売業者又はその配置員は、その住所地の都道府県知事が発行する身分証明書の交付を受ければ、これを携帯しなくとも配置販売に従事することができる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤

【問6】 次の記述は、医薬品の定義を規定する薬事法第2条第1項の一部である。（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

- 一 日本薬局方に収められている物
- 二 人又は動物の疾病の診断、治療又は予防に使用されることが目的とされている物であって、（ a ） 歯科材料、医療用品及び衛生用品(以下「（ a ）等」という。)でないもの（（ b ）を除く。)

	a	b
1	医療機器	医薬部外品
2	医療機器	化粧品
3	機械器具	医薬部外品
4	機械器具	化粧品

【問7】 日本薬局方に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

日本薬局方とは、薬事法第41条の規定に基づいて、(a)が医薬品の性状及び品質の適正を図るため、薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて、保健医療上重要な医薬品について、必要な(b)及び(c)等を定めたものである。

	a	b	c
1	厚生労働大臣	規格・基準	標準的試験法
2	厚生労働大臣	保存方法	効能効果
3	厚生労働大臣	規格・基準	効能効果
4	都道府県知事	保存方法	標準的試験法

【問8】 医薬品の製造販売に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

薬事法の規定により、医薬品は、(a)の許可を受けた者でなければ製造販売してはならないとされている。また、その医薬品は、品目ごとに、(b)有効性及び(c)について審査等を受け、その製造販売について厚生労働大臣の承認を受けたものでなければなりません。

	a	b	c
1	製造販売業	価格	汎用性
2	製造販売業	品質	安全性
3	製造業	価格	安全性
4	製造業	品質	汎用性

【問9】 次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 外形上、食品として販売されている製品であれば、その成分本質にかかわらず、薬事法の取締りの対象とならない。
- b 特定保健用食品とは、身体の生理学的機能等に影響を与える保健機能成分を含む食品で、健康増進法の規定に基づき、特定の保健の用途に資する旨の表示の許可を受けた食品である。
- c 健康食品という言葉は、薬事法により定義されている。
- d 健康食品の摂取による重篤な健康被害が発生した場合、その因果関係が完全に解明されるまで製品名は公表されない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤

【問 1 0】 次の記述の正誤について、薬事法の規定に照らし、正しい組み合わせはどれか。

- a 厚生労働大臣が基準を定めて指定する医薬部外品を除き、医薬部外品を製造販売する場合には、承認を得る必要がある。
- b 医薬部外品を販売する場合には、医薬品販売業の許可が必要である。
- c 厚生労働大臣の指定する成分を含有する化粧品を除き、化粧品を製造販売する場合には、承認を得る必要がない。
- d 化粧品を販売する場合には、医薬品販売業の許可は必要ない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正

【問 1 1】 毒薬又は劇薬に関する次の記述のうち、薬事法の規定に照らし、正しいものはどれか。

- 1 毒薬又は劇薬を、20歳未満の者その他安全な取扱いに不安のある者に交付してはならない。
- 2 毒薬又は劇薬を、一般の生活者に対して販売する際には、当該医薬品を譲り受ける者に、品名、数量、使用目的、譲渡年月日、譲受人の氏名、住所及び職業が記入され、署名捺印された書類を交付する必要がある。
- 3 店舗管理者が登録販売者である店舗販売業者は、毒薬又は劇薬を開封して販売してはならない。
- 4 劇薬を貯蔵、陳列する場所には、かぎを施さなければならないが、毒薬を貯蔵、陳列する場所にはかぎを施す必要はない。

【問 1 2】 一般用医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品のリスク区分は、配合されている成分又は使用目的等に着目して、製造販売を行う者が指定する。
- b 第三類医薬品より第一類医薬品の方が、保健衛生上のリスクが高い。
- c 店舗管理者が薬剤師である店舗販売業者は、一般用医薬品をリスク区分ごとに陳列しなくてもよい。
- d 一般用医薬品の直接の容器又は被包には、リスク区分ごとに定められた事項が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	正

【問13】 次のうち、医薬品の直接の容器又は被包に記載しなければならない法定表示事項として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 製造業者の氏名又は名称及び住所
- b 製造販売業者の氏名又は名称及び住所
- c 日本薬局方に収められている医薬品にあっては日本薬局方において定められた名称
- d 効能又は効果

1 (a、 b) 2 (b、 c) 3 (c、 d) 4 (a、 d)

【問14】 次の記述のうち、薬事法の規定に照らし、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 店舗販売業の許可を受けた者が薬剤師であれば、登録販売者をして第一類医薬品について情報提供できる。
- b 第一類医薬品を販売する場合には、購入者から説明を要しない旨の意思表示があった場合を除き、厚生労働省令で定める事項を記載した書面を用いて情報提供しなければならない。
- c 店舗販売業の許可を受けた者が、薬剤師をして第二類医薬品を販売する場合、情報提供に努める必要はない。
- d 第三類医薬品を販売する場合には、情報提供をすることが望ましいものの、法律上の規定は設けられていない。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

【問15】 店舗販売業者における医薬品の貯蔵、陳列に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品を陳列する場合には、第一類医薬品は別に陳列しなければならないが、第二類医薬品と第三類医薬品は混在して陳列してもよい。
- b 一般用医薬品とともに、医薬部外品の販売が行われる場合には、医薬品と区別して貯蔵又は陳列しなければならない。
- c 一般用医薬品とともに、化粧品の販売が行われる場合には、医薬品と区別して貯蔵又は陳列しなくてもよい。
- d 一般用医薬品とともに、健康食品の販売が行われる場合には、医薬品と区別して貯蔵又は陳列しなくてもよい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤

【問16】 医薬品等の広告に関する次の記述のうち、医薬品等適正広告基準に基づき正しいものはどれか。

- 1 チラシの同一紙面に、医薬品と化粧品をあわせて掲載してもよいが、一般の生活者に対して、その化粧品に医薬品的な効能効果があるように誤認させてはならない。
- 2 医療関係者が推薦している旨は、事実であればどのような場合でも広告に使用してもよい。
- 3 漢方処方製剤の効能効果は、配合されている個々の生薬成分の作用を挙げて説明することが適当である。
- 4 一般用医薬品の販売広告として、製薬企業等から販売促進のため提供されるチラシであれば、その内容や表現が不適切であってもそのまま使用してもよい。

【問17】 医薬品の販売方法に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 異なる医薬品を組み合わせる場合、組み合わせた医薬品について、購入者等に対して情報提供を充分に行える程度の範囲内であって、かつ、組み合わせることに合理性が認められなければならない。
- b キャラクターグッズ等の景品類を提供して販売することは、不当景品類及び不当表示防止法の限度内であれば認められる。
- c 店舗販売業において、許可を受けた店舗以外の出張所に医薬品を陳列し、そこを拠点として販売に供してもよい。
- d 配置による販売方法には、医薬品を先用後利によらず現金売りを行うことが含まれる。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

【問18】 薬事法第54条の規定により、医薬品に添付する文書、その医薬品又はその容器若しくは被包(内袋を含む。)に記載されてはならない事項として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 当該医薬品に関し虚偽又は誤解を招くおそれのある事項
- b 当該医薬品の製造年月日
- c 当該医薬品の承認を受けた効能又は効果
- d 保健衛生上危険がある用法、用量又は使用期間

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

【問19】 次のうち、医薬品の直接の容器又は被包に記載しなければならない法定表示事項として、正しい組み合わせはどれか。

- a 重量、容量又は個数等の内容量
- b 承認等を受けた承認番号
- c 日本薬局方に収載されている医薬品以外の医薬品にあつては、その有効成分の名称及びその分量
- d 適切な保存条件の下で3年を超えて性状及び品質が安定でない医薬品等、厚生労働大臣の指定する医薬品における使用の期限

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正

【問20】 薬事法に基づく監視指導に関する次の記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

厚生労働大臣、都道府県知事、保健所を設置する市の市長及び特別区の区長は、その職員のうちから、()を命じ、監視指導を行っている。

- 1 薬事監視員 2 販売監視員 3 麻薬取締員 4 医療監視員

医薬品に共通する特性と基本的な知識（20問）

【問2 1】 医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は人体にとっては異物（外来物）であるため、必ずしも期待される有益な効果（薬効）のみをもたらすとは限らない。
- b 一般用医薬品であっても医療用医薬品と同様に、科学的根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。
- c 検査薬は、人体に対して直接使用されないため、人の健康に影響を与えることはない。
- d 一般用医薬品は、製品に添付されている文書（添付文書）や製品表示に必要な情報が記載されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正

【問2 2】 医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品は医療用医薬品と異なり、人体に及ぼす作用が単純なので、そのすべてが科学的に解明されている。
- b 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるが、その販売に専門家が関与し、適切な情報提供や相談対応する必要がある。
- c 一般用医薬品はリスク区分の見直しは行われるが、承認基準の見直しは行われない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	誤

【問2 3】 次の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 薬事法では、健康被害の発生の可能性がない場合は、医薬品に異物等の混入、変質等があっても製品回収等の措置がなされることはない。
- b 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、常に医薬品の新しい情報の把握に努める必要がある。
- c 一般用医薬品は、市販後その有効性の確認は行われないが、安全性は確認する仕組みになっている。
- d 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達され、購入者が適切に使用することで、初めてその役割を十分に発揮するものである。

1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

【問24】 次の記述は、世界保健機関（WHO）における副作用の定義である。（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を（ a ）ために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ（ b ）反応」とされている。

- | | a | b |
|---|-------|-------|
| 1 | 正常化する | 意図しない |
| 2 | 正常化する | 不快な |
| 3 | 向上させる | 不快な |
| 4 | 向上させる | 意図しない |

【問25】 次の記述について、（ ）の中に入れるべき正しい字句の組み合わせはどれか。

薬物が生体の生理機能に影響を与えることを（ a ）という。通常、医薬品は複数の（ a ）を併せ持つため、期待される有益な反応である（ b ）以外の反応が現れることがある。

- | | a | b |
|---|-------------|--------|
| 1 | 薬理作用 | 主作用 |
| 2 | 主作用 | 相互作用 |
| 3 | セルフメディケーション | 薬理作用 |
| 4 | 相互作用 | プラセボ効果 |

【問26】 アレルギーに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 成人するまでに、医薬品に対してアレルギーを起こさなければ、それ以後アレルギーを起こすことはない。
- 2 アレルギーには遺伝的な要素もあるため、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。
- 3 アレルギーは医薬品の薬理作用とは関係なく起こり得る。
- 4 免疫機構が過敏に反応し、過剰に組織に刺激を与えることによって引き起こされた体の各部位に生じる炎症をアレルギー症状という。

【問 2 7】 次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 添加物である黄色 4 号（タートラジン）はアレルギーとなりうる。
- b 蕁麻疹はアレルギーとの接触以外に、皮膚への物理的な刺激によっても生じる。
- c 代表的なアレルギーとして小麦、卵、乳、そば等の食品やハウスダストが知られているが、アレルギーとなりうる物質に季節特有なものはない。
- d 外用薬ではアレルギーは起こらない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正

【問 2 8】 副作用に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品は、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用が生じることがある。
- 2 血液や内臓機能への副作用は、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- 3 一般用医薬品の副作用の兆候が現れたときには、基本的に使用を中止し、必要に応じて医師、薬剤師などに相談がなされるべきである。
- 4 眠気や口渇等の比較的良好に見られる症状は、副作用に含まれない。

【問 2 9】 医薬品の不適正な使用と有害事象に関する次の記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 根本的治療等がなされないまま、一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和するだけの対処を続けていても、有害事象を招く危険性が増すことはない。
- b 小児に対して、小児への使用を避けるべき医薬品を、安易に減量して服用させてはいけない。
- c 一般用医薬品は医療用医薬品と異なり、習慣性がある成分は含まれていない。
- d 人体に直接使用されない医薬品についても、使用する人の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤ると、有害事象につながることもある。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

【問30】 医薬品における相互作用に関する次の記述について、()の中に入れるべき最も適切な語句はどれか。

相互作用には、医薬品が吸収、代謝、() 排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

- 1 合成 2 濃縮 3 分泌 4 分布

【問31】 医薬品と食品の飲み合わせに関する次の記述の正誤について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アルコール嗜好者では、アセトアミノフェンが代謝されにくくなることがある。
- b ハーブは生薬成分が配合された医薬品の効き目を増強させることがある。
- c カフェインを含む医薬品とコーヒーと一緒に服用すると、カフェインの過剰摂取になることがある。
- d ブロムワレリル尿素が配合された解熱鎮痛剤服用時に飲酒すると、ブロムワレリル尿素の鎮静作用が増強することがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	正

【問32】 医薬品の使用上の注意等において用いられる、年齢区分のおおよその目安として正しいものはどれか。

- 1 乳児 - 3歳未満
- 2 幼児 - 10歳未満
- 3 小児 - 15歳未満
- 4 高齢者 - 60歳以上

【問33】 次の記述について、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品は、全て小児用向けのものが作られている。
- 2 小児は、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- 3 乳児は、積極的に一般用医薬品によるセルフメディケーションを行うことが望ましい。
- 4 高齢者は、一般用医薬品を定められた量より少なく使用すれば副作用が生じることはない。

【問34】 妊婦、授乳婦等に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 母体が医薬品を使用した場合に、医薬品成分の胎児への移行を、胎盤関門がどの程度防御するかは、未解明のことが少なくない。
- b アスピリンは、胎児の動脈管の収縮や妊娠期間の延長等のおそれがあるため、出産予定日12週間以内の妊婦は服用してはいけない。
- c 塩酸ジフェンヒドラミンは、乳児に昏睡を起こすおそれがあるため、授乳中の人は本剤を服用しないか、服用する場合は授乳を避ける必要がある。
- d ヒマシ油類は、その作用により流産・早産を誘発するおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正

【問35】 次の成分を主薬とする製剤のうち、使用上の注意として、「胃酸過多の症状がある人は服用しないこと」とされているものはどれか。

- 1 イブプロフェン
- 2 スクラルファート
- 3 カフェイン
- 4 塩酸プソイドエフェドリン

【問36】 医薬品の品質に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- 2 配合成分は、温度、湿度等によって品質の劣化を起こしやすいが、直射日光には安定であるものが多い。
- 3 使用期限とは、適切な方法で、かつ未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。
- 4 適切な保管をしても、経時変化による品質の劣化は避けられない。

【問37】 一般用医薬品の役割に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 健康状態の自己検査
- b 生活の質（QOL）の改善・向上
- c 衛生害虫の防除
- d 重度な疾病に伴う症状の改善

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正

【問38】 一般用医薬品の販売等に従事する専門家が情報提供を行う際、購入者から確認又は把握することが望ましい事項として、正しい組み合わせはどれか。

- a その医薬品を使用する人が、相互作用や飲み合わせで問題を生じるおそれのある他の医薬品や食品を摂取していないか。
- b その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか。
- c 購入者が加入している健康保険の種類はなにか。
- d その医薬品がすぐに使用される状況にあるか。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正

【問39】 次の記述は、クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）に関するものである。（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

CJDは蛋白質の一種であるプリオンが原因とされ、プリオンが脳の組織に感染し、次第に（ a ）に類似した症状が現れ、死に至る重篤な（ b ）である。ヒト乾燥硬膜の原料が採取された段階でプリオンに汚染されている場合があり、プリオン不活化のための十分な化学処理が行われないまま製品として流通し、脳外科手術で移植された患者にCJDが発生した。

	a	b
1	中毒性表皮壊死症	神経難病
2	中毒性表皮壊死症	膠原病
3	認知症	膠原病
4	認知症	神経難病

【問40】 薬害に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 HIV訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルスが混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、ヒト免疫不全ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 スモン患者に対しては、治療研究施設の整備、治療法の開発調査研究の推進、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担などが講じられている。
- 3 スモン訴訟は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を妊婦が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- 4 スモン訴訟等を契機として、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

人体の働きと医薬品（20問）

【問4 1】 口腔に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 歯周組織である歯槽骨の中に埋没している歯の部分、歯冠という。
- b 舌の表面には、味蕾という無数の小さな突起があり、味覚を感知する部位である舌乳頭が分布している。
- c 唾液には、デンプンをデキストリンや麦芽糖に分解する消化酵素が含まれている。
- d 唾液によって口腔内はpHがほぼ中性に保たれ、酸による歯のう蝕を防いでいる。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

【問4 2】 リゾチームに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 細菌の細胞壁を分解する作用を有する。
- 2 消炎作用を有する。
- 3 涙液に含まれ、角膜や結膜に対して抗酸化作用がある。
- 4 唾液以外に鼻汁にも含まれる。

【問4 3】 血漿に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ホルモンや医薬品の成分等が血漿に含まれるアルブミンと複合体を形成すると、血液によって運ばれるときに代謝や排泄を受けやすくなる。
- 2 血漿に含まれるグロブリンは、血漿成分が血管から組織中に漏れ出のを防ぐ。
- 3 脂質は、血漿中の蛋白質と結合してリポ蛋白質を形成し、血漿中に分散している。
- 4 血液の粘稠性は、血漿中の水分量よりも血中脂質量の影響を受け、動脈硬化症に伴う血行障害に関係している。

【問 4 4】 血液の働きに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 血液中のヘモグロビンは肺胞の毛細血管で酸素分子と結合し、末梢組織の毛細血管で酸素分子を放出する。
- b 血液の循環により、体内で発生した温熱が体表、肺、四肢の末端等に分配され、全身の温度がある程度均等に保たれる。
- c 血液は、ホルモンを運搬することによって体内各所の器官・組織相互の連絡を図る働きを有する。
- d 血液中の二酸化炭素は血漿中に溶け込むことができないため、ヘモグロビンと結合して末梢組織から肺へ運ばれる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤

【問 4 5】 医薬品に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 内用液剤は、服用後に循環血液中の成分濃度が上昇しやすいため、依存性がある成分等が配合されていると、不適正な意図で服用されることがある。
- 2 医薬品の有効成分の薬効は、摂取後の血液濃度が最高血中濃度に達するまで生体の反応として現れない。
- 3 一度に多量の医薬品を摂取して血中濃度を高くしても、ある濃度以上で薬効は頭打ちになる。
- 4 全身作用を目的とする医薬品は、血中濃度が無効域と危険域の間の範囲となるよう使用量や使用間隔が定められている。

【問46】 尿路に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 女性は尿道が長いため、細菌などが侵入しても膀胱^{ぼうこう}までの感染は生じにくい。
- b 高齢者では、膀胱^{ぼうこう}や尿道の括約筋の働きによって排尿を制御する機能が低下する。
- c 男性では、膀胱^{ぼうこう}の真上に尿道を取り囲むように前立腺^{せんせん}がある。
- d 男性では、加齢とともに前立腺^{せんせん}が肥大し、尿道を圧迫して排尿困難等を生じることがある。

1 (a、 c) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (b、 d)

【問47】 腎臓に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 腎臓に入る静脈は細かく枝分かれして、毛細血管が小さな球状になった糸球体を形成する。
- b 腎臓には内分泌腺^{せんせん}としての機能もあり、骨髓^{ずい}における白血球の産生を促進するホルモンを分泌する。
- c 腎臓は、血圧を一定範囲内に保つ上で重要な役割を担っている。
- d 食品から摂取あるいは体内で生合成されたビタミンDは、腎臓で活性型ビタミンDに転換されて、骨の形成や維持に役立つ。

1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

【問48】 次の記述は耳の働きに関するものである。これらの働きをする部位の名称について、正しい組み合わせはどれか。

- a 伝わってきた音で鼓膜が振動し、鼓室内部の3つの耳小骨が鼓膜の振動を増幅する。
- b 水平・垂直方向の加速度を感知する部分と、体の回転や傾きを感知する部分が含まれており、それらの内部を満たすリンパ液の動きが平衡感覚として感知される。
- c 渦巻き形をした器官の内部はリンパ液で満たされ、伝わった振動がリンパ液を震わせ、その振動が聴細胞の小突起を揺らす。

	a	b	c
1	中耳	内耳	内耳
2	中耳	中耳	中耳
3	外耳	中耳	内耳
4	外耳	内耳	中耳

【問49】 外皮系に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 耳垢腺、唾液腺はどちらも外皮系である。
- b 乳腺、前立腺はどちらも外皮系ではない。
- c 皮脂腺、汗腺はどちらも外皮系である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤

【問50】 次の記述は筋組織に関するものである。()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

筋組織のうち、運動器官とされるのは(a)であり、関節を動かす(a)は、関節を構成する骨に(b)を介してつながっている。筋組織は(c)と(d)からできているのに対して、(b)は(d)のみでできているため、伸縮性はあまりない。

	a	b	c	d
1	腱 ^{けん}	筋細胞	結合組織	骨格筋
2	骨格筋	腱 ^{けん}	筋細胞	結合組織
3	結合組織	骨格筋	腱 ^{けん}	筋細胞
4	筋細胞	結合組織	骨格筋	腱 ^{けん}

【問51】 自律神経系の中で副交感神経系が優位にあるとき生体に現れる現象のうち、正しいものはどれか。

- 1 皮膚においては立毛筋が収縮する。
- 2 汗腺においては発汗が亢進する。
- 3 肝臓においてはグリコーゲンが分解される。
- 4 気管支においては気管支が狭窄する。

【問5 2】 神経伝達物質に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般的に、交感神経の神経伝達物質は(a)と(b)、副交感神経の神経伝達物質は(c)である。

医薬品の成分が体内で薬効又は副作用をもたらす際も、自律神経系への作用や影響が重要である。効果器に対して(c)様の作用を有する成分を(d)作動成分という。

	a	b	c	d
1	アドレナリン	ノルアドレナリン	アセチルコリン	コリン
2	コリン	アセチルコリン	アドレナリン	ノルアドレナリン
3	アドレナリン	コリン	ノルアドレナリン	アセチルコリン
4	ノルアドレナリン	アセチルコリン	コリン	アドレナリン

【問5 3】 医薬品の作用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 点鼻薬で、全身性の副作用を生じることがある。
- b 局所作用が目的とされる含嗽薬^{そとう}でも、有効成分が循環血液中に入ることがある。
- c 坐剤は、有効成分が直腸内壁から循環血液中に入りやすいため、内服よりも全身作用が速やかに現れる。
- d 皮膚に適用する医薬品は、加齢等により皮膚のみずみずしさが低下すると、医薬品の成分が浸潤・拡散しやすくなる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	誤

【問5 4】 医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンやミネラルの一部は、標的となる器官や組織の表面に分布する特定の蛋白質(受容体)を介さずに全身作用をもたらす。
- b 血漿蛋白質と複合体を形成している医薬品の成分は、腎臓で濾過され尿中に排泄される。
- c 医薬品の成分と血漿蛋白質との結合は不可逆的である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正

【問5 5】 次のうち、医薬品の成分が吸収され、肝臓で代謝を受けてから全身を巡るものはどれか。

- 1 坐剤
- 2 内用液剤
- 3 点鼻薬
- 4 貼付剤

【問5 6】 リンパ系に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 リンパ液は血漿の一部が毛細血管から組織の中へ滲み出して組織液となったもので、血漿とほとんど同じ成分からなるが、蛋白質が少なく、リンパ球を含む。
- 2 組織液のほとんどは毛細血管で吸収されて血液に還元されるが、一部はリンパ管に入っ
てリンパ液となる。その際、組織中に侵入した細菌、ウイルス等の異物も同時にリンパ管
に取り込まれる。
- 3 リンパ液の流れは主に骨格筋の収縮によるものであり、流速は血流に比べて穏やかなた
め、リンパ管には逆流防止のための弁がない。
- 4 リンパ管は互いに合流して次第に太くなり、最終的に鎖骨の下にある静脈につながるが、
途中でリンパ節と呼ばれる結節があり、リンパ節の内部にはリンパ球やマクロファージが
密集していて、リンパ液で運ばれてきた細菌やウイルス等は、ここで免疫反応によって排
除される。

【問 5 7】 医薬品の副作用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a かぶれ症状には、太陽光線（紫外線）に曝^{さら}されて初めて起こる光線過敏症と呼ばれるものがあり、医薬品が触れた部分だけでなく、光が当たった部分の皮膚から全身へ広がり、重篤化する場合がある。
- b 光線過敏症の場合、患部を遮光して速やかに医師の診療を受ける必要があるが、その際、白い生地や薄手の服は紫外線を透過するおそれがあるため注意しなければならない。
- c 皮膚以外に目や口腔^{くわう}粘膜の異常が見られる場合や発熱を伴う場合には、皮膚粘膜眼症候群等の重症型薬疹^{しん}へ急速に進行する場合がある。
- d 薬疹^{しん}を起こしたことの無い人は、二日酔いや食べ過ぎ、肉体疲労等のときでも薬疹^{しん}が現れることはない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正

【問 5 8】 肝機能障害に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品の使用により生じる肝機能障害は、医薬品の成分又はその代謝物の肝毒性による中毒性のものと、特定の体質で現れるアレルギー性のものとに大別される。
- 2 主な症状としては、全身の倦怠感、黄疸^{だん}のほか、発熱、発疹^{しん}、皮膚の搔痒感^{そうよう}、吐き気等がある。
- 3 黄疸^{だん}とは、胆汁酸が胆汁中へ排出されずに血液中に滞留することが原因で、皮膚や白目が黄色くなる現象である。
- 4 医薬品の使用だけでなく、いわゆる健康食品やダイエット食品として購入したものの使用によっても起きている。

【問59】 胃腸症状に現れる副作用に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 消化性潰瘍^{かいよう}とは、医薬品の作用により大腸の腸管内の粘膜が障害され、組織が損傷した状態である。
- b イレウスとは、腸内容物の通過が阻害されている状態をいい、普段から下痢傾向がある人は発症リスクが高いとされている。
- c イレウス様症状は、悪化すると腸管内に貯留した消化液が逆流し、激しい嘔吐^{おう}によって脱水症状を起こすことがある。
- d 消化性潰瘍^{かいよう}では、胃のもたれ、食欲低下、胸やけ、吐き気、胃痛、空腹時にみぞおちが痛くなる、消化管出血に伴って糞便が黒くなるなどの症状を生じる。

1 (a、 b) 2 (a、 d) 3 (b、 c) 4 (c、 d)

【問60】 アルドステロンに関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

アルドステロンは(a)ホルモンのひとつであり、体内に(b)と(c)を貯留し、(d)の排泄を促す作用を有する。

- | | a | b | c | d |
|---|--------------------|-----------|------|-----------|
| 1 | 副腎皮質 | 塩分(ナトリウム) | 水 | カリウム |
| 2 | 副腎皮質 | カリウム | 水 | 塩分(ナトリウム) |
| 3 | 副腎髄質 ^{すい} | 塩分(ナトリウム) | カリウム | 水 |
| 4 | 副腎髄質 ^{すい} | カリウム | 水 | 塩分(ナトリウム) |